

HEALTHCARE

おかしん

2019年9月 vol.27



上：愛知医療学院短期大学、左下：ゆうあいこども園、右下：ゆうあいリハビリクリニック

岡崎信用金庫の医療介護業界への取り組みについて

地域密着型金融の推進

おかしんは「地元産業の発展と社会の繁栄に真心をもって奉仕する」ことを基本方針として、地域の医療機関や介護事業所に対して、地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

問い合わせ窓口 岡崎信用金庫 営業店支援第二部 成長産業支援グループ 医療・福祉専担デスク

tel : 0564-25-7115 mail : ifsg@okashin.co.jp

この情報誌は、愛知県内において岡崎信用金庫が配布・問い合わせ先です。ご質問等ございましたらメールで承ります。



岡崎信用金庫

[interview] 今月のKEY PERSON
お年寄り、学生、子どもが交流する地域づくりを推進

学校法人佑愛学園 愛知医療学院短期大学 学長 石川 清氏に聞く

3年後の創立40周年に向け、新たなビジョンを打ち出し、本格的な組織改革に乗り出した学校法人佑愛学園。石川清新学長に意気込みと今後の取組みについて伺った。



短大十クリニックとも園
3つの組織が三位一体に

属ゆうあいじも園」を開園す。

研修会、啓蒙活動等を実施し、地域に貢献していくといったものだ。地域企業との産学連携による共同事業としての災害救護も進められており、「災害救護にあたる人材の育成は、本学園が特色ある学園となるための重要な柱のひとつ」と石川氏はとうてい。

今年2019年4月、愛知医療学院短期大学(清須市)の新学長に石川清氏が就任した。石川氏は18年3月まで名古屋第二赤十字病院院長を務めた医療界の長。定年退職を機に学校法人佑愛学園に籍を移した恰好だ。

医療界から教育界へ、病院経営から学校経営へ。別世界への思い切った転身のように見えるが、「実は組織としてみると類似点が多い」と石川氏は言う。「(今)私は教育者・研究者の長というより管理運営の実務者としてこれまでの経験を存分に活かしたいと考えています。教職員や学生が主体的にやりがいをもつて働き学ぶこと

ができるよう、全面的にサポートしていきたい」と力を込める。

学校法人佑愛学園は1982年に専門学校愛知医療学院を開校。その後、08年に短期大学に移行し、愛知県唯一のリハビリ医療専門短期大学として発展してきた。これまで1700人以上の理学療法士、作業療法士を社会に輩出。14年には短大に併設する形で、学生の臨床実習の場「ゆうあいクリニック・ディケアセンター」を開設。さらに、20年4月には隣接地に障がい児も含めた「愛知医療学院短期大学附

年寄りに本学の学生が寄り添い、こども園の子どもたちと一緒に歓談しているイメージ像が浮かび、私が今後目指すビジョンとぴったり一致しました」と語る。「お年寄りを元気にすること」そして「3世代が交流する場を」の地域に創りたい」と使命として、一步踏み出したばかりだ。

清須発、独自の地域づくりで特色ある人材を育成、輩出する

学長就任から約半年を経た現在、さまざまな改革が進められている。

ひとつの災害医療救護への取組みである。名古屋市都市圏にある清須市は人口が伸び続けている数少ない地域である一方で、甚大な水害が危惧される地域もある。そこで石川氏は、学園と日赤愛知県支部との連携を強化。日赤が実施する災害訓練に参加したり、ノウハウを修得することで、同学園が

そして産業医でもある石川氏が目指すのが『健康経営』だ。クリニックで教職員・学生(園児)の健診データを一元管理するなど、同学園が健康経営に先進的に取り組むことで、その大切さを広く発信していくとしている。

22年には創立40周年を迎える佑愛学園。いままさに地域医療構想の最前線に立ち、新たな取組みに挑戦する石川氏。「(この)清須発の地域づくりがモデルとなり、ここで育った人材とともに、地域の同業者の皆さんのお役に立てれば本望です」と今後も各地の医療従事者に向けメッセージを送り続けていく。